

2026 年度 名古屋大学デジタル人文社会科学研究推進センター
「学会発表奨励金」募集要項

1. 目的

- (1) 本奨励金は、デジタル人文社会科学教育プログラムに参加している大学院生の研究活動を支援することを目的とする。
- (2) 特に、デジタル人文社会科学に関する研究発表、研究交流および学会・研究会等への参加を促進し、研究能力の向上および分野横断的な知見の深化に資することを目的とする。
- (3) 支援対象となる研究発表
 - ・ デジタル人文社会科学研究推進センター教員の指導の下に行われること。
 - ・ 「学会・研究会等」は、国内外で実施されるデジタル人文社会科学関連の学会・研究会であること。
 - ・ 連名者がいることは構わないが、発表者として参加すること。
 - ・ 原則として、発表許可が下りていること（要証明）。発表申請中の場合は、発表許可が下りた時点で正式採択とする。

2. 応募資格

- (1) 2026 年度に大学院（研究科を問わない）に在籍し、デジタル人文社会科学教育プログラムに参加登録申請した者。（2026 年度登録：5 月締切済み／10 月再度受付予定。締切後のプログラムへの登録申請は認めない。）
- (2) デジタル人文社会科学研究推進センター教員（専任・兼任問わない）の推薦を受けている者。
- (3) 申請は、同一課程内は一人 1 件限りとする。
- (4) 原則、休学中の研究発表には応募できない。
- (5) 他の助成金、研究費等を受給している場合であっても応募することができる。ただし、同一の費用について本奨励金と他の助成金等から重複して支出することはできない。本奨励金の対象となる費用と他の助成金等の対象となる費用を区分できる場合は、それぞれの助成制度の対象として取り扱うことができる。

3. 提出書類

- (1) 申請書（デジタル人文社会科学研究推進センター教員（専任・兼任問わない）からの推薦署名（要直筆）有り）
- (2) 日程表
- (3) 航空券の見積書・旅程表・明細付き領収書と半券（紙の半券のほか、航空会社ウェブサイト等から取得した「搭乗証明書（PDF 等）」や、搭乗ゲート通過時の「デジタル搭乗券（QR コード等）のスクリーンショット」でも可）
*ID 番号などにより、すべてが互いに紐づいていること
- (4) 乗車券の原本（紙の切符が発行されないチケットレスサービス（スマート EX、新幹線 e チケット等）を利用した場合は、利用明細や予約完了画面、交通系 IC カードの利用履歴などのスクリーンショットでも可）
- (5) 大会プログラムの写し（自身の名前・発表日時・発表タイトルが記載されている部分）
- (6) 発表原稿の写し（予稿集原稿のほか、当日提示資料等も可）

* (5) (6) について、申請中の場合は、学会発表募集要項と提出した申請資料一式。

4. 期間と奨励金額

- (1) 対象となる旅行期間は、2026 年 10 月 1 日～2027 年 3 月 21 日＊とする。

＊来年度以降は、当該年度 4 月～当該年度 3 月 20 日前後を対象期間とする予定。

- (2) 助成額は、学会参加費および旅費の合計額に応じて、以下の①～③のいずれかの区分を選択するものとする。ただし、これらの区分を超える金額を申請することはできない。

- ① 20 万円
- ② 10 万円
- ③ 5 万円

いずれの助成額区分で支給するかは、目的地までの経路の妥当性に関する審査の結果により決定されるため、申請時の区分よりも低い区分で採択される場合がある。

また、助成額は実際の支出額に基づいて最終的に確定されるため、交付決定額から減額される場合や、要件を満たさない場合には支給されないことがある。(制度要項第 6 および本要項第 5 参照)

5. 計画変更および活動未実施時の取扱い

- (1) 申請時の計画から変更が生じた場合は、速やかに事務室に相談すること。
- (2) 活動内容の変更があった場合は、その内容に応じて支給額を減額することがある。
- (3) 活動が実施されなかった場合は、原則として奨励金は支給しない。ただし、やむを得ない事情により発生した費用については、内容を審査のうえ、全部または一部を支給対象とすることがある。
- (4) 判断にあたっては、変更又は未実施の理由（本人の責によらない事由か否か）を考慮する。
- (5) 具体的な取扱いの例は次のとおりとする。
- ア 天候、災害、感染症の拡大、交通機関の事故等により参加できなかった場合
→ 発生した費用（キャンセル料等）について、内容に応じて支給対象とする。
 - イ 学会・研究会の中止、延期、開催方法の変更等、主催者側の都合による場合
→ 発生した費用について、内容に応じて支給対象とする。
 - ウ 本人の都合により実施されなかった場合
→ 上記(3)のとおり取り扱う。
 - エ その他、本人の責に帰すべきでない事由による場合（疾病、家族の不幸等）
→ 個別事情を踏まえ、発生した費用について支給対象とする。
- (6) 変更又は未実施の理由に関する確認が必要な場合には、当該事由を証明する書類の提出を求めることがある。主な例は以下のとおりとする。
- ア 天候、災害、感染症の拡大、交通機関の事故等の場合
→ 当該事象を確認できる資料（ニュース記事、交通機関の運休証明、航空会社又は鉄道会社からの通知等）
 - イ 学会・研究会の中止、延期、開催方法の変更等、主催者側の都合による場合
→ 主催者からの通知、電子メール、学会又は研究会のホームページ掲載情報その他当該事実を確認できる資料
 - ウ 本人の都合による場合
→ 必要に応じて事情を説明する書類の提出を求めることがある。
 - エ その他、本人の責に帰すべきでない事由による場合（疾病、家族の不幸等）
→ 疾病の場合は、医師による診療又は治療を要するものを原則とし、医療機関を受診したことを示す資料

家族の不幸又は緊急入院等の場合は、配偶者及び2親等以内の親族を対象とし、葬儀関係書類又は医療機関の受診を示す資料等

6. 募集日程と選考結果

申請期間：2026年7月15日(水)～2026年12月10日(木)【随時受付】

提出先：dhss-jimu@t.mail.nagoya-u.ac.jp

選考結果：本人と推薦教員にメールで通知

7. 申請書類の作成方法

- ・申請書類は、必ずデジタル人文社会科学研究推進センター教員の指導のもとで作成すること。
- ・書式は、デジタル人文社会科学研究推進センターホームページに掲載する所定の様式を使用するものとする。

8. 申請書類作成上の注意事項

A：個人データ

- ・緊急連絡の可能性もあるため住所・携帯電話番号・機構メールは正しく記入し、変更した場合はその都度連絡する。
- ・所属の専門・分野名は、正式名称を記入する。
- ・学年は、当該年度の4月1日現在のものとする。
- ・発表に関連する他助成金の有無を必ず申告する。

B：申請する発表に関して

- ・研究発表の題目、研究領域、発表形態について記入する。

C：学歴および職歴

- ・学歴は大学入学以降を記入。職歴は雇用期間も明記。ただしTA、RAは含まない。
- ・必要に応じて行を増やす。

D：著書、学術論文

- ・卒業論文、修士論文を必須とする。タイトルの冒頭に（卒）（修）、掲載誌・出版社の欄に大学・学部（研究科）名を記入する。
- ・学術論文は、号数・出版年・掲載ページも併記する。
- ・必要に応じて行を増やす。

E：発表する研究集会と、それを主催する学会

- ・現時点でわかる範囲を記入する。

F：希望する奨励金額の選択と内訳(金額は円に換算)

- ・希望する奨励金額の種類は、本募集要項の4(2)を参考に、①～③のいずれかを選択し、○をつける。
- ・内訳については、申請書の記入例を参考に、出発地～到着地に到る経路を、区間ごとに行を分けて記す。行を増やしてよい。
- ・到着地は、学会が開催される都市とし、その主要駅までの往復を経路とみなす。

G：本申請の研究発表の内容

- ・本研究発表の概要を日本語の場合、1200～1500字程度で記述し、英語の場合は1ページ以内に記述する。
- ・本研究発表がデジタル人文社会科学分野とどのように関連するかについて具体的に記載すること。

- ・ 本研究発表への取り組み及び発表経験が、申請者本人の研究能力の向上にどのように寄与するか等研究発表の意義について記載すること。

H：推薦教員の署名

- ・ 本研究発表をデジタル人文社会科学研究推進センター教員の指導下で行うことの確認のため、所定欄に教員が直筆署名する。

9. その他

- ・ 申請件数・採択件数・採択された研究発表題目は、デジタル人文社会科学研究推進センターホームページで公開する。

本助成は、デジタル人文社会科学研究推進センターの経費から行います。採択者は、研究者倫理に基づき、厳正に奨励金を執行して下さい。

2026 年度 学会発表奨励金 申請書

2026 年 月 日

A：申請者個人データ

申請者氏名（フリガナ） 姓 名	所属の分野・専門名等の名称
学籍番号（ ）	2026 年度現在の学年（後期） 年
連絡先住所と電話番号（携帯） 〒 携帯 Tel. （ ）	
全学（機構）メールアドレス	他の奨学・研究助成金がある場合、名称と金額 助成金額 円

B：申請する発表に関して

研究発表の題目（発表言語： 語）	研究領域（キーワードで）
発表形態（選択） シンポジウム・個別発表・ポスター発表・ワークショップ・ その他（ ）	

C：学歴及び職歴

年	月	学歴および職歴

D：著書、学術論文（卒業論文、修士論文を含む）

年	月	タイトル	掲載誌

E：発表する研究集会と、それを主催する学会に関して

研究集会の名称及び主催学会 の正式名称	学会規模（出席 人数・参加国 数）	研究集会会期 （自身の発表予定日）	開催国・都市・会場施設 名もしくは WEB 参加か
		年 月 日～ 日	

F：希望する奨励金額の選択と内訳(金額は円に換算)

<希望する奨励金額> （募集要項参照）（右欄に○）⇒	① ② ③ ④
<経路の内訳>	区間ごとの金額

出発地～経由地～到着地の都市名や空港名（区間ごとの交通機関名）	
例：名古屋駅―セントレア（名鉄）（往復）	1960 円
セントレア―シンガポールチャンギ国際空港（空路）（往復）	67000 円
チャンギ空港―シンガポール市内（鉄路）（往復）	600 円
	円
	円
総額	円

G：本申請の研究発表の内容

- ・本研究発表の概要を簡潔に記載すること。
- ・本研究発表がデジタル人文社会科学分野とどのように関連するかについて具体的に記載すること。
- ・本研究発表への取り組み及び発表経験が、申請者本人の研究能力の向上にどのように寄与するか等研究発表の意義について記載すること。

（日本語の場合 **1200～1500** 字程度：英語の場合、**A4** 用紙 **1** 枚に収まる程度に記述する）

当該テーマに関連する重要な文献（**3** つまで）：

H 推薦教員の署名

申請者が渡航・発表の準備から終了後帰宅に至るまで、デジタル人文社会科学研究推進センター教員の指導と責任の下で活動を行うことを同意いただくために、下記に直筆署名をお願いします。

申請者はデジタル人文社会科学教育プログラムに参加しており、本支援金の趣旨に適合する者として適格と認められるため、ここに推薦いたします。

令和 年 月 日

所属：

職名：

氏名： (自署)